

講義名	対2) 社会保障論			授業形態	
担当教員	上瀬 真生	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

主題と概要

今日、住民の健康で文化的な生活のためには、社会保障制度による生活保障が欠かせない。老後生活を経済的に支える年金、病気やけがの際の医療、高齢期の介護、あるいは失業時の保障や育児のための諸施策、こうした生活保障の諸制度を抜きに住民の生活は成り立たない。そこで本講義では、日本の社会保障制度の現状を把握し、今後、住民のためにどのような社会保障制度が必要であるかを考える。

到達目標

社会保障制度の基本的な理念と仕組みを理解することができるようになる。
現代日本の社会保障制度が抱える課題について理解することができるようになる。
以上をふまえて、今後の社会保障制度のあり方について自分なりの考えをもつことができるようになる。

提出課題

毎回「一言カード」の提出を求める。
小テストを2回課す。
中間レポート試験を課す。
期末レポート試験を課す。
*これらについては、RYUKA Portal のレポート機能をつうじて提出を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義後に提出してもらった「一言カード」にもとづいて、必要な解説や補足説明を行なう。
小テストについては、その結果を要し、講義でポイント、採点基準等を解説する。
中間レポート試験については、その結果を発表し、採点基準等を説明する。
期末レポート試験については、要望があればコメントを付して採点結果を知らせる。

評価の基準

小テスト、中間レポート試験、期末レポート試験の総合評価（単純合計）による。
小テスト 10点満点 x 2回 = 20点
中間レポート試験 最高40点
期末レポート試験 最高50点
*「一言カード」は基本的には成績評価の材料ではないが、最終的な成績判定の際にその提出状況を考慮する。

履修にあたっての注意・助言他

できるだけ身近な問題との関係を踏まえて講義するつもりであるが、受講生には身近な問題を歴史や理論と結びつけて学ぶ努力をしてほしい。そのために受講生自身が新聞や雑誌などの関連記事に目を通し、今日の社会保障をめぐる問題について知る努力をしてほしい。
以下のとおり、受講ルールを定める。
(1) 授業開始後15分を過ぎたのちは、入室を認めない。
(2) 座席については教員の指示に従う。
(3) 私語厳禁。目にあまる場合は退室してもらう。
(4) 携帯電話などの電源は切る（レジュメへの書き込みなどでPCやスマートフォンを使う場合は例外とするが、写真撮影は禁止する）。
新型コロナウイルスの感染状況等により、オンデマンド講義に移行することがある。
その場合、対面講義の動画を遅くとも講義日の翌日に配信する。
受講生は、この動画を必ず視聴して毎回の課題や最終レポートに取り組むこと。

教科書

.使用しない。 .

参考図書

.講義内で適宜紹介する。 .

その他

RYUKA Portal の講義連絡をつうじてレジュメ、資料を配信する。
配信は講義日の1日前を基本とする。
受講生は、これらをダウンロードし、印刷するなど、講義に向けて準備すること。

授業計画

01. 社会保障とは何か
02. 社会保障を支える仕組み : 社会保障における保険の仕組みと強制加入の意味
03. 社会保障を支える仕組み : 社会保障における負担のあり方
04. 社会保障を支える仕組み : 社会扶助と社会サービス
05. 社会保障を支える仕組み : 税の再配分機能
06. 日本の社会保障制度の概略的特徴 支出と財源の構造
07. 日本の社会保障制度の概略的特徴 社会保障を取り巻く状況
08. 日本の年金制度の課題 2 階建ての公的年金と社会保険主義
09. 日本の年金制度の課題 年金調整のしくみと雇員方式的年金財政
10. 日本の年金制度の課題 年金改革にあたって考えるべき諸問題
11. 日本の年金制度の課題 税方式と積立金活用の検討
12. 日本の医療制度の課題 人口高齢化と医療のあり方
13. 日本の医療制度の課題 医療費抑制政策とその問題
14. 日本の医療制度の課題 今後の医療制度の課題
15. 日本の社会保障制度の課題

*オンデマンド講義に移行する場合、対面講義の動画を遅くとも講義日の翌日に配信する。受講生は、この動画を必ず視聴して毎回の課題や最終レポートに取り組むこと。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

「一言カード」の記入・提出、および毎回の復習にもとづく小テストの準備 30時間
中間レポート試験の準備 158時間
期末レポート試験の準備 158時間

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標 を達成することによって、社会保障制度に関して、「経済学科共通のディプロマ・ポリシーのうち「これまでの学問的成果の基礎を身に付ける」ことができる。また、到達目標 を達成することによって、「現代社会の諸問題」の一つである社会保障制度について「幅広い観点から考察し、課題を提案することができる」ようになる。
到達目標 を達成することによって、現代経済コースのディプロマ・ポリシーで言う「経済問題を中心に」した「現代社会の諸問題」の一つである社会保障制度をめぐる問題について「世の中の動きを理解して」、「解決策を提案することができる」ようになる。また、地域まちづくりコースのディプロマ・ポリシーで言う「複雑化する地域社会で生起する問題」の一つである社会保障制度をめぐる問題について「経済学を基盤として」読み解き、解決策を提案することができる」ようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回、「一言カード」によって、講義のポイント、分かったこと、分らなかったことを整理し、提出してもらう。
次回講義で、それにもとづいて必要な補足説明やコメントを行う。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

オンデマンド講義に移行する場合、対面講義の動画を遅くとも講義日の翌日に配信する。受講生は、この動画を必ず視聴して毎回の課題や最終レポートに取り組むこと。
RYUKA Portal の講義連絡やメールなどをこまめにチェックすること。